

(演題)

和歌山県における梅栽培の歴史と産地振興に向けた研究等の取組

(講演要旨)

梅は和歌山県を代表する果樹であり、令和4年産の収穫量は約6万4千トンで、昭和40年産から58年間連続して全国第一位となり、その全国シェアは60%以上を占めています。主産地のみなべ町、田辺市では梅林の観光を含めた基幹産業となっており、それを支えているのがブランド品種の「南高」です。

今回の講演では、良好な梅品種を探索し高品質な梅を持続的に生産して現在の産地を形成するに至った歴史や産地振興に向けた取組を紹介します。

初めに基礎的な事項として、梅栽培の一年間の様子や栽培の歴史などについて、続いて梅産地の振興に向け研究に取り組んでいる和歌山県うめ研究所の研究概要（特に、新品種の育成や新しい加工品開発等）について、最後に先人たちの努力が実を結び、FAO（国連食糧農業機関）から世界農業遺産の認定を受けた「みなべ・田辺の梅システム」について、それぞれスライドにより紹介します。

(プロフィール)

氏名：竹中 正好

昭和38年 和歌山県田辺市生まれ

昭和59年 愛媛大学農学部園芸農学科卒業

昭和59年 中国四国農政局広島統計情報事務所勤務

平成4年 和歌山県農学職採用

平成17年 専門技術員（果樹）資格取得

平成19～27年 和歌山県果樹試験場うめ研究所・研究員

平成31年 和歌山県果樹試験場うめ研究所・副所長

令和2年～ 和歌山県果樹試験場うめ研究所・所長

(レジュメ)

1. ウメのおはなし

- ① うめの仲間や種類
- ② うめのパワー
- ③ うめの一年
- ④ 和歌山県のウメ生産量と主な品種
- ⑤ 和歌山県におけるウメ栽培と加工品の歴史

2. 和歌山県うめ研究所の研究概要

- ① 主な研究内容
- ② 特徴あるウメ新品種と加工品開発
- ③ 新品種の育成と実績

3. 世界農業遺産の取組

①みなべ・田辺の梅システムについて

②農業遺産シンボル「南高梅」の歴史

③梅・炭の生産振興と販路拡大

④生物多様性・地域景観の保全

⑤伝統技法・伝統文化の伝承

⑥今後の課題